

未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成

—教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して—



校長挨拶



校長 安藤 眞樹

鉄粉に活性炭と塩水をかけると発熱したのは、カイロの仕組みらしいけど、カイロは70℃にはならないから不思議。塩水を多めに入れた方が発熱したから、普段使っているカイロに塩水をかけたら、もっと熱くなるのかなと思いました。

生徒Aは、授業の終盤に授業での学びと自らの生活をつながけながら語り始めました。その言葉からは、学びを止めることなく、新たな課題を見つけ、「わからないことを調べたい」「新しいことを学びたい」と動き出す姿が見られます。この姿は、変化する社会の中で将来にわたって学び続ける力につながるたいへん魅力的なものだと考えます。

社会の変化がますます加速し予測困難な時代を迎えている今、学校教育には、生徒がさまざまな課題に主体的に向き合い、自らの人生や社会の未来を切り拓いていく力を育むことが求められています。そのためには、単に知識や技能を習得するだけでなく、学ぶことの意味や価値を実感し、自ら考え、判断し、行動する力を育てていくことが重要です。

本校は、「わかる学習指導」を目指すようになって64年目を迎えます。急速に変化する社会の中で、教育に求められるものも変化しています。しかし、『わかる学習指導』を柱に継続的に進めてきた本校の研究は、教育における不易の部分を確認に示し、私たちを導く大きな指針となっています。

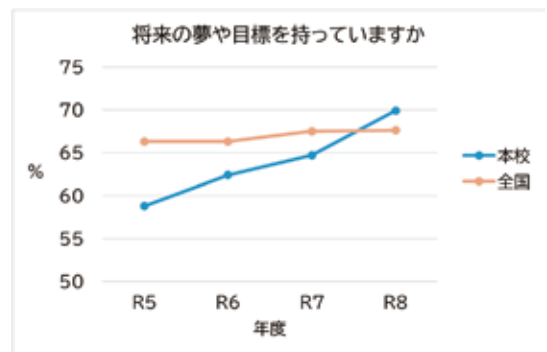
本年度は、「わかる学習指導」の第13次研究「未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成」を研究主題に、副題を「教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して」として4年目を迎えました。生徒が学びの価値を実感できるように、各教科部会で議論を重ね、单元ごと、1時間の授業ごとの学びを明確にして授業構想するなど、授業改善に取り組んでまいりました。

この4年間の研究から見てきたことは、生徒が学習内容と実生活や将来の生き方とのつながりを見だし、「なぜ学ぶのか」「学んだことをどのように生かすことができるのか」を実感できる授業こそが、生徒の主体的な学びを支え、自己実現への意欲を高めたことです。生徒の具体的な姿としては、全国学力・学習状況調査の質問にある「将来の夢や目標を持っていますか」の「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の割合は、この

4年間で段階的に上昇し、今年度は全国平均から2ポイント以上、上回りました。これは、生徒が教科の学びを通して多様な見方や考え方を身に付け、物事をさまざまな角度から捉え始めたことから、自らの将来にまで目を向け始めた結果であると考えています。

本研究では、生徒一人一人の学びの姿から、その成果と課題を検証してまいりました。本紀要は、その実践の過程と成果をまとめたものです。ここに示された研究の成果が、今後の教育実践の充実に向けた一助となれば幸いです。

本研究の推進にあたり、教科・領域指導員の先生方には多大なる御指導や御助言をいただいております。改めて深く感謝申し上げます。



令和8年10月7日

岡崎市立竜海中学校 校長 安藤 眞樹

目次

研究総論・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1

研究の全体像・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

教科論と実践例

国語科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3

社会科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5

数学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7

理科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9

音楽科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 11

美術科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 13

保健体育科・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 15

技術・家庭科（技術分野）・・・・・・ P. 17

技術・家庭科（家庭分野）・・・・・・ P. 19

英語科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 21

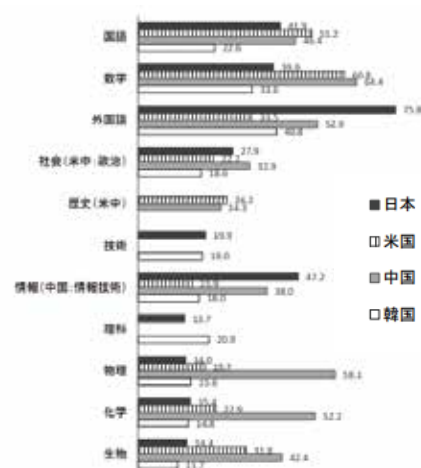
特別支援教育・・・・・・・・・・・・・・ P. 23

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 25

研究総論

令和7年7月の「高校生の科学への意識と学習に関する調査報告書」（国立青少年教育振興機構）には「日本の高校生は、外国語や情報、家庭科が将来に役立つとの評価が高い一方、理数系や芸術が役立つとの評価は低い」とある。「将来役立つと思う科目」について、「物理」や「化学」と回答した高校生は約15%で、米国の約20%から有意に低く、中国の50%以上と比べると相当な差があると言える。国語や数学についても、差の大きさは違うものの、諸外国に比べて将来の役に立つと考える高校生は少ないようだ（資料1 将来役に立つと思う科目）。この傾向は高校生だけのものとするのは不自然だろう。

本校の令和7年度教育活動診断結果によれば、「授業では、友達の意見や考えをよく聞き、自分の学習に生かしている」という設問に対し、90.5%の子供が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えている。一方で「授業では、進んで自分の意見や考えなどを友達に伝えている」という設問に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた子供は73.5%にとどまっている（資料2 教育活動診断結果）。また、授業中の教師の手応えとして、子供によって学習内容の理解度に差が大きいと感じることが多々ある。



資料1 将来役に立つと思う科目

高校生の科学への意識と学習に関する調査－日本・米国・中国・韓国の比較－
国立青少年教育振興機構より

7	授業には、楽しく積極的に取り組んでいる	42.2	48.6	7.3
8	授業では、進んで自分の意見や考えなどを友達に伝えている	31.4	42.1	21.7
9	授業では、友達の意見や考えをよく聞き、自分の学習に生かしている	46.9	43.6	8.3
10	授業では、課題を追究する学習が多くある	46.8	43.6	8.2

資料2 教育活動診断結果

■ よくあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない

以上のことから、本校の子供の実態として、次の三つが浮かび上がってきた。

- 教科・領域の学びが実生活に役立つという実感が薄い。
- 話を聞くのは得意だが、自ら学ぶ姿が少ない。
- 授業で「わかる」子供とそうでない子供が二極化している。

本校は昭和38年度より一貫して「わかる学習指導」を目指して授業研究を続けている。「わかる」という言葉の意義を探り、「はっきりと見える」「ことの筋道がはっきりする」「さとする」をキーワードに展開してきた歴史がある（「わかる学習指導」の原点／次頁）。これは教育の不易と捉えており、今後も継続していく理念である。また、次期学習指導要領に向けた教育課程企画特別部会の論点整理では「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自ら人生を舵取りすることができる」と求めている。本校の子供の実態からも、今求める姿は、自らの可能性を信じ、未来社会の変化に主体的に対応しながら、自分らしい生き方を切り拓いていくことができることであろう。それには教科の学びを子供が実感できるよう、授業と未来を結び付けた授業展開が必要になる。

そこで、第13次研究の主題を「未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成—教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して—」とした。次頁に研究の構想を示す。

「わかる学習指導」の原点

本校の「わかる学習指導」の授業研究は、昭和38年度から継続して行われている。「わかる」の意義は次のように説明される。

①はっきりと見える

【対象の明瞭確実な把握】

五感で知覚し、他のものと区別を明らかにする

②事の筋道がはっきりする

【概念の形成】

抽象的、概念的なものを思考によって自ら捉える

③さとり

【「覚る」と「悟る」】

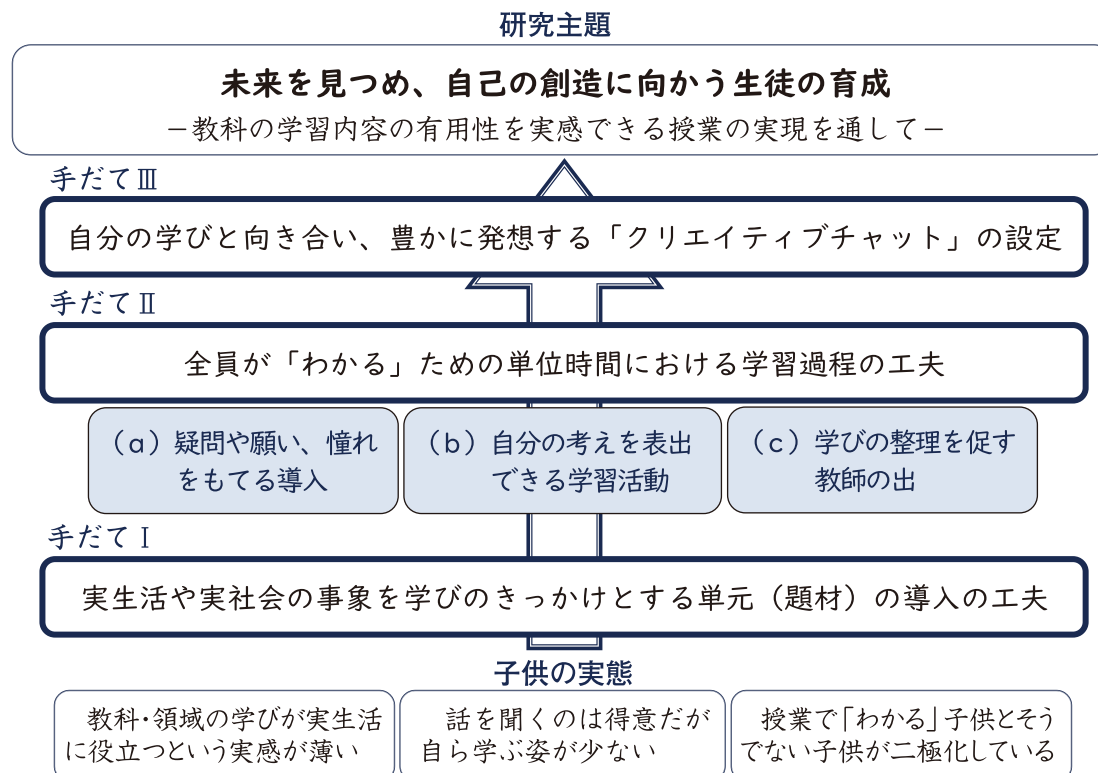
主体を形成確立し、真理を体得・会得する

愛知教育大学教授伊藤四三九指導・岡崎市立竜海中学校著
『わかる学習指導の実践と研究—教育の原点にかえる—』（明治図書、昭和46年）

研究の仮説

単元（題材）の導入において実社会や実生活の事象を学びのきっかけとしたり、全員が「わかる」よう単位時間の学習過程を工夫したりした上で、単元や授業の終末に自分の学びと向き合い、価値付ける活動を取り入れれば、未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒を育成することができるであろう。

研究の概要



＝「クリエイティブチャット」とは＝

「創造的なおしゃべり」のこと。単元や本時の終末に、子供が自分の学びと向き合い、豊かに発想する発展的な活動。発想は全て「正解」であり、教師は子供一人一人の考えを共感的に受け止めたり、それぞれの考えをつなげたりすることに専念する。導入でつながった実生活と授業が、未来へと昇華する瞬間。



獲得する読みの力を自覚し、自らの考えを言葉によって構築する

国語科における学習内容の有用性とは

- ・話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの言語活動を通して、言葉を正しく理解し、語彙を豊かにすることで、言語感覚を磨き、自らの考えを状況に合わせて適切に表現することができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・読んだ人に共感してもらえるように書いたという点で見ると、枕草子とSNSは似ているね。
- ・「カレーがよい」と「カレーでよい」は1字違うだけで印象がだいぶ違うね。だから、昨日はお母さんの機嫌が悪くなったんだ。
- ・時計を何度も確認したり、貧乏ゆすりをしたりしている人を見ると、言葉で言わなくても「この人、急いでいるのかな」って思うときがあるよ。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・表現力を高めたいという願いをもてるように、言葉の扱い方や表現がわかりやすく工夫された例文を示す。
- ・本時の学習内容への課題意識が高められるように、本時の教材文のうち、解釈の違いや構成の工夫が際立つ部分を取り上げて提示する。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・自分の考えを言葉によって構築できるように、獲得すべき読みの力に近付くような課題を設定し、文章中の叙述を根拠として考えたことを文章で記述する活動を設定する。
- ・多様な視点から考えて意見が言えるように、意見交流の場で、他者の意見と比較して気付いたことを話すよう促す。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・考えやまとめをする場面で、文章中の言葉を根拠にしているか、文脈に即した読み取りになっているか、他の考え方と比べながら具体的に説明できているかなどと問う。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・教材と実生活とのつながりを意識して取り組めるように、これまでの言語経験を想起できる資料を提示したり、既存の価値観を見つめ直す発問をしたりするなど、教材との出会わせ方を工夫する。

【これまでに行ってきた例】

- ・「ももたろう」の絵本を読み比べる活動を設定することで、古典の世界に親しみをもつことができた。
- ・企業の広告を提示して「短い言葉でなぜ印象に残るのか」を問うことで、企業が言葉を選ぶ表現の工夫に着目できた。



手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

「枕草子」が現代まで読み継がれている理由を考えさせるために、「自分流枕草子」を作る活動を設定した。完成した作品を「共感性」と「独自性」の視点から相互評価するよう伝えた。その後、「枕草子」も同じ視点で評価することで、現代まで読み継がれている理由について思考を促した。

【子供の姿】

- ・共感と目新しさのバランスがよいから、読み継がれているのではないかという意見を述べた。
- ・現代における「いいね」や「フォロー」をする理由と似ているという意見をもった。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

登場人物の心情の変化を視覚的に整理できるように、透明なシートに心情グラフを書くよう伝えた。作成した心情グラフを班の仲間と重ね合わせて、気付いた点を話し合うよう促した。その際、根拠となった叙述を示しながら話せるように話型を示した。

【子供の姿】

- ・登場人物の心情の変化について、根拠となる叙述を示しながら自分の意見を述べた。
- ・班の仲間の意見から、自分では見つけられなかった叙述に気付き、新たにプリントに書き足すことができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

現代との共通点や相違点から古典に関心をもてるように、江戸時代の「ももたろう」を紹介した。伝承による伝わり方や解釈の違いがあることに気付けるように、「ももたろう」や有名な昔話の絵本を読み比べる活動を設けた。

【子供の姿】

- ・同じ「ももたろう」なのに、江戸時代と今で全然違うところがあっておもしろかったという感想をもった。
- ・現代と異なるところはあるけれど、今まで残り続けているのはなぜかという疑問をもった。



社会的な見方や考え方を働かせ、よりよい社会を創造する力を育む

社会科における学習内容の有用性とは

- ・社会事象を空間的な広がりや時系列、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較したり分類したり統合したりすることで、地域社会や人々の生活と関連付けることができるようになる。
- ・よりよい社会にするための人の工夫や努力に着目したり、社会の仕組みを捉えたりし、その上で何が必要か、自分に何ができるかを考えることができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・砂漠地帯で土レンガの家が多いのは、暑さをしのぐためや材料が手に入りやすいからだと分かった。日本に木造の家が多いのも気候や材料が関係ありそうだ。
- ・「関税自主権がない」ということを学んで、今、アメリカが他の国に高い関税をかけているので、自分の国で適切な関税をかけるということは重要なことだと思った。今の日本は大丈夫かな。
- ・自分がもし選挙に行くとしたら、いろいろな候補者の意見を聞き比べてしっかりと考えないといけないと思った。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・地理的分野で、世界の地域差や、時差、地球温暖化に気付くことができるよう、オリンピックなど世界的なイベントを題材にする。
- ・歴史的分野で、偉人の取組が理解できるよう、通知表の作成を目標として掲げる。
- ・公民的分野で、課題をつかめるよう、衆議院選挙の結果や岡崎市の政策などを題材とする。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・自分の考えを、ホワイトボードや学習アプリを使って記入し、その後、グループで意見を共有し、比較したり分類したりする。また、それを学級全体で共有する。
- ・「いいねカード」などを作製、活用し、自分の考えや立場を表現できるようにする。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・考えを比較したり分類したりできるよう構造的な板書になるよう工夫する。
- ・考えを揺さぶるような資料提示や発問をする。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・自ら課題を設定して追究し、持続可能な社会に向けて考えていけるよう、実生活や実社会に関わりがあったり、つながりが読み取れたりする資料を提示する。

【これまでに行ってきた例】

- ・身近な地形図を製作し、視覚的にとらえられるようにする。
- ・「カルピス」「キャラメル」など、大正時代発祥で現在も存続するものを提示する。
- ・「市長を選ぼう」「コンビニの店長になろう」など、シミュレーション学習を行う。



社会科 実践例

手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

大正時代の魅力に迫っていく授業の中で、大正時代の最大の魅力と現代の自分たちの生活との関わりが非常に大きいことを伝えた。その後、この時代から現代につながることを話し合う場を設定した。

【子供の姿】

- ・「9月1日に避難訓練を行うのは、関東大震災で学んだことを忘れないようにするためだ」という意見が出た。
- ・「大正時代に流行していた物が、今も残っている」と現代と比較しながら考えた。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

豊臣秀吉の政策について、レーダーチャートを活用して、通知表をつくる活動を行った。スクールタクトで根拠となる資料を示した。子供の意見を評価と項目ごとに分けた板書を用い、同じ政策でもなぜ評価が異なるのかを問いかけた。

【子供の姿】

- ・秀吉の「外交」「政治経済」「統一過程」について、資料や他者の意見を基に、総合的に評価することができた。
- ・その時代に生きている人の立場で、人物や政策の評価が異なることに気付くことができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

自分たちが住む岡崎市への関心を高めるために、地形図を見ながら地域の特徴について意見を出し合う場を設けた。そして、地域による違いや土地利用に着目するように促した。

【子供の姿】

- ・「岡崎市は都会だと思っていたけれど、想像以上に山や田んぼが多そうだ」と感想をもった。
- ・「竜海中学区が岡崎市の中央ではなかった。実際はどこなのだろう」と解決したい疑問をもった。



主体的に課題に取り組み、数学のよさを実感できる

数学科における学習内容の有用性とは

- ・身の周りの事象を数式や図形などを用いて整理し、論理的に考え、根拠を明らかにした上で、課題を解決できるようになる。
- ・論理的に考える中で、既習事項を他の学習内容とつなげられることや、他の身の周りの事象の問題を解決する際にも活用できることに気付けるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・ファストフード店のジュースのサイズは他でも相似になっているのか、値段との関係でどのサイズがどれくらいお得になるのか気になった。
- ・ペットボトルキャップの数を数えなくても重さで数がわかるから、学校目標の重さを決めて、自分が持ってくる個数の目安を考えられそう。
- ・確率を使うことで、ゲームのガチャの当たりやすさを考えることができそうだな。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・生徒が日常生活や前時までの授業を振り返って抱いた思いや考えたことを全員に共有し、これが数学のどの内容と関係がありそうか、生徒の意見を基に、見通しをもった上で学習課題を設定する。
- ・本時の学習課題を生徒自身が解決したいと感じる問題として疑問をもてるよう、問題（学習課題）に対する答えを予想する場面を設定し、既習事項と関連付けて考えられるよう発問を工夫する。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・自分の考えを可視化できるよう工夫したワークシートを使用し、思考し、まとめる時間を十分にとる。
- ・自分の考えを相手に伝えやすい状況をつくるために、ペアやチームで意見を共有し合ったり、ホワイトボードやスクールタクトを活用して級友の考えに触れたりするなど、状況に応じて生徒同士の関わりをもつことができるようにする。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・班ごとの活動が停滞しないよう、活動を見取った上で、助言したり、特定の班が抱えている困り感を全体に共有したりする。
- ・本時の学びが深まるよう、生徒が発表した後で、「なぜそれがいえたのか」「どのように使えたのか」などと問い返す。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・生徒自身が解決したいと感じる問題を単元目標として設定するために、日常の事象を教材にしたものの中で、生徒が疑問を抱いたり知的好奇心を揺さぶられたりする題材を工夫して選ぶ。

【これまでにやってきた例】

- ・大量のペットボトルキャップを提示し、個数を調べる方法には何があるかと生徒に発問する。「1個ずつ数える」という意見に対する「それをするのは面倒くさい」という生徒の思いを基に、「よりよい方法はないか授業を通して一緒に考えよう」と単元を設定する。





科学的に探究し、科学的な根拠に基づいて判断する

理科における学習内容の有用性とは

- ・自然の美しさや精妙さ、偉大さを感じるとともに自然についての理解が深まり、新たな問題を見いだすことができるようになる。
- ・持続可能な社会に向けて、科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・地層が何万年もかけてつくられることを学んだので、学校の下にも何万年もの歴史があるんだなあと思って感動した。
- ・火力発電が多く使われていることがわかったけど、環境に悪いんだよね。効率がいいってことかな。少ない材料やエネルギーでタービンを速く回せるのかな。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・本時の学習内容に直結する疑問や解決したいという願いをもてるように、教材を提示する際、事象そのものや、事象と生活経験との共通性や差異性が浮き彫りになるよう出合わせ方を工夫する。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・予想や考察を個で考えて書く時間を設けるとともに、対話をもちかけて考えの言語化を促す。
- ・ペアやチームで予想や考察を伝え合ったり、全体で議論を交わしたりする場を設ける。
- ・科学的な根拠に基づいて考察ができるよう、実験や観察の結果を「実際にできたのか（実証性）」、「誰が何回やってもそうなのか（再現性）」、「データを根拠にしているか（客観性）」の観点で見ているかを問う。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・本時の学びの整理を端的に表現できるよう、要点となるキーワードを空欄にした整理の文章を提示する。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・主体的に探究できるよう、日常生活や自然現象とつながりがあったり、インパクトの強かったりする教材や教具との出合わせ方を工夫する。

【これまでに行ってきた例】

- ・合わせ鏡や凸レンズが作る立体的な像を見せるとともに、それらで遊ぶ中で気づきを言語化できるように対話して、多くの疑問を得た。
- ・果物電池を使って豆電球を光らせることで、食べ物が電池になる意外性から、仕組みを探究する意欲を高めた。



手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

分類の難しい動物としてカモノハシを挙げた。知りたい特徴をたずねるよう発言を促した。子供の発言に応じて特徴を公開した。結論を書くよう指示した。哺乳類に分類されることと、どうしてそのように考えられるかを言葉と動画で伝えた。

【子供の姿】

- ・ゲームのキャラクターで動物に近いものも、同様に分類できるのではないかという意見を述べた。
- ・ヒトも昔は卵生で、進化している途中なのではないかという考えをもった。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

こんにゃくやレンガ、ピンポン玉などに力を加えてみるよう指示した。力を加えたことでわかった力の働きを「力は〇〇する」とノートに書くよう指示した。いろいろな力の働きを認識できるように抽出し、ホワイトボードに書くよう伝えた。

【子供の姿】

- ・「力は物をへこませる」や「力は物を動かす」など、全員の子供が力の働く様子を三つ以上ノートに書くことができた。
- ・抽出した力の働きを基に、子供は力の働きを三つに分類することができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

合わせ鏡や凸レンズが作る立体的な像を見せた後、それらで遊ぶと同時に、気づきを得るよう伝えた。遊んでいるときに対話をもちかけ、気づきを言語化できるようにした。子供の気づきを集め、光の道筋がキーワードであることを伝えた。

【子供の姿】

- ・「家にある3面鏡に似ている」や「映画館みたい」と感想をもった。
- ・「鏡を2枚組み合わせると、見えるものが増えるのはなぜ」や「なぜ逆さまに映るのか」などと解決したい疑問をもった。



感性を働かせ、根拠をもって豊かに表現できる

音楽科における学習内容の有用性とは

- ・音楽のよさや楽しさを感じ、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすることができる。
- ・音楽と生活との関わりに関心を持ち、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度を育てることができる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・１年生の時に歌った「その先へ」を３年生でもう一度歌ったら、歌詞の意味やメロディーの感じが卒業にぴったりで、１年生の時とは違う気持ちで歌うことができた。
- ・民謡の音階を使って旋律を作ってみたら、最近の曲みたいな雰囲気になったから、最近の音楽も民謡の影響を受けているのかなと思った。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・このように歌いたいという具体的な姿をイメージできるように、範唱の音源や映像を、プロの音楽家によるものだけでなく、中学生や高校生によるものも選ぶ。また教師自身が積極的に範唱する。
- ・音楽から感じ取るイメージを広げやすくするために、教科書を開く前の、曲の情報が無い状態で鑑賞を始めるなど、教材との出会わせ方を工夫する。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・表現する際の思いや意図をもちやすくするために、グループでの練習や発表の場を設け、どのように感じたかを問う。
- ・自分が創作した音楽がどのような響きなのかをイメージしやすくするために、タブレット端末にインストールされているアプリを使い、フィードバックしながら創作する活動を設け、イメージに近い音楽になっているかを問う。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・生徒が知覚したことと感受したこととの関わりを意識して学びの整理ができるように、生徒の意見を分類するなど板書を工夫する。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・実生活の中の音楽と教材との関わりを実感できるように、教材の選択や教材との出合わせ方を工夫する。

【これまでに行ってきた例】

- ・「日本の民謡」の題材で、本校の体育大会の演技でアレンジされた楽曲が使用されている「秋田音頭」を最初に鑑賞することで、学校生活と民謡とのつながりを意識できるようにした。



音楽科 実践例

手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

滝廉太郎作曲「花」の1番と3番の変化を見つけられるよう、1番と3番の楽譜を上下に並べて提示した。変化をつけた作曲者の意図を考える際、歌詞の意味や音楽の構成に着目するよう伝えた。明治維新の前後で日本の音楽を比較できるように、既習の歌舞伎の音楽を再び鑑賞する場を設けた。

【子供の姿】

- ・社会科の歴史の授業で学習した内容との関連に気づき、級友と確認し合った。
- ・江戸時代までの日本人になじみのなかった西洋音楽を日本に導入した作曲者の功績に着目し、現在自分たちが聞いている音楽への影響について意見交流した。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

民謡の魅力について意見交流をする際、タブレット端末にダウンロードした音源を流しながら、音を使って意見を伝えるように促した。意見交流では「自分と似ている」「自分と違う」「興味をもってより詳しく聞いてみたい」など、視点を明らかにして級友の意見を聴くように助言した。

【子供の姿】

- ・より主体的に意見交流に臨むことができた。
- ・魅力と感じている音楽の特徴をより具体的に伝えることができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

民謡が自分たちの身近にあるものだと思いをもちことができるように、民謡の鑑賞として最初に出会う教材を、体育大会で使用している曲にした。民謡をより身近に感じることができるよう、民謡で使われる楽器の実物を実際に触って音を出す場を設けた。

【子供の姿】

- ・民謡で使われる楽器を触りながら、より響く音を出す方法を試行錯誤することができた。
- ・小学校の運動会で踊った「ソーラン節」の振りを思い出したり、沖縄民謡で使われる指笛の練習をしたりした。



表現、鑑賞活動を通して自己を調整し、たくましく生きようとする力を育む

美術科における学習内容の有用性とは

- ・感性や創造力を基盤に、自己の内面や考えを視覚的に表現できるようになる。
- ・思考力・判断力・表現力を総合的に育むとともに、多様な価値観を認め合う態度を養い、文化を創造、享受し、他者と協同しながら社会を生き抜くことができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・フォントが丸いとやわらかい印象に見えるね。
- ・お店の表示の配色にも意味があるんだね。
- ・マグリットの人生経験が作品に生かされているのかも。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・自己の価値観を自覚させるために、複数の表現や価値の中から選択できるようにする。
- ・憧れや見通しをもって活動できるようにするために、モデル作品を提示する。
- ・表現活動を自己の課題として捉えることができるように、自身の経験や感情、未来像と関連付けた問いの設定をする。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・表出への心理的ハードルを下げるために、短時間で自己の考えを可視化するアイデアスケッチを行う。
- ・表現と思いや意思をつなげながら行う対話活動を設ける。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・作品と制作のつながりを意識させるために、この作品がどのような場面で活用できるものになるのかを問う。
- ・主体的な学習態度の形成につなげるために、本時の学びを次時や今後の表現にどう生かすかを振り返らせる。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・学習課題を自分のこととして捉え、主体的に発想し構想する態度を育成するために、実社会や実生活に見られる課題や事象を導入に位置付け、生徒の経験と関連付ける。

【これまでにやってきた例】

- ・パッケージやポスター、食器など、実際の製品を複数提示することで、それらの共通点やよさに気付くことができた。
- ・生徒自身の大切なものや好きなものを作品テーマに取り入れることで、より作品を身近に感じ、大切に制作することができた。



手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

明朝体とゴシック体、それぞれの書体を学んだ後、多種多様なフォントを掲示した。その場の「らしさ」を表現するために一番適しているフォントは何かをグループで考える時間を設けた。全てのグループの答えを黒板で共有し、そのフォントを選んだ理由を説明するよう促した。

【子供の姿】

- ・お店の表示や看板に使われているフォントを意識して見てみようという考えをもった。
- ・フォントが変わるだけで、その場のイメージや雰囲気が違ってみえたと感想をもった。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

簡易的なストリングアートを、切り込みを入れた厚紙とひもで作るよう促した。「円の中に直線で円を作ることはできるのだろうか」という学習課題で、どのような糸のかけ方をすれば円ができるか試行錯誤する時間を設けた。

【子供の姿】

- ・規則的に糸をかけていくと、中心に円ができることに気付くことができた。
- ・切り込みの数を変えたり、糸のかけ方を工夫したりすることで、円の作り方は無限にあるのではないかと考えた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

「焼き物」と聞くとどのような製品が思い浮かぶかを生徒に問いかけ、写真も提示しながら、日常生活の身近に焼き物があることを伝えた。給食で使われるプラスチックの碗と手作りの茶碗を見比べ、それぞれのよさや違いについて考える時間を設けた。

【子供の姿】

- ・「贈る相手が喜ぶものを作りたい」と考え、アイデアスケッチを描いた。
- ・「一点物だからこそ、他では買えないようなものにしたい」という感想をもった。



自ら課題を発見し、合理的な解決を目指す

保健体育科における学習内容の有用性とは

- ・運動、スポーツとの多様な関わりの中で、その価値や特性に触れる楽しさや喜びを体感するとともに体力向上を図り、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現できるようになる【体育】
- ・学齢期の健康や安全に関する課題の克服、リスクの軽減に必要な基礎を培い、生涯を通じて、身体的、精神的、社会的により状態で豊かな生活を送ることができるようになる。【保健】

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・テレビ中継のサッカーの試合の映像が上からなのは、ボールを持っていない人が得点をとるためにどう活躍しているか全体がわかるようにするためかな。テレビ放送も伝えたい内容によって撮り方を考えているね。
- ・副流煙による受動喫煙も健康に影響が出るから、ある企業では喫煙場所を撤去し全社員に禁煙を促しているところもあるみたいだよ。だけど、たばこはやめたくてもやめられないと聞いたことがあるから、喫煙者への対応は何かないのかな。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・課題を自分のこととして捉え、子供が見いだした疑問や願い、憧れから本時の課題を設定できるようにするために、前時に見いだした課題を意図的に示したり発問を工夫したりする。
- ・合理的な解決に向けて粘り強く取り組むことができるように、課題の達成に向けた方法を見通す時間（仮説を立てる時間）を設ける。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・自己の考えをもち、それを試す機会を十分に確保するために、試技やゲームを繰り返し行う授業を展開する。
- ・自己の考えを見直し、深めるために、タブレット端末等を活用して自他の動きや考えを客観的に捉える場を設ける。
- ・課題解決に向けた考えを伝え合ったり認め合ったりすることができるように、試技やゲームの分析と考えを共有する時間を設ける。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・学びの再構築につなげるために、試技やゲームを分析し、課題に対する考えを共有した上で、自己の振り返りを促す。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・合理的な解決を目指すことができるように、競技との出会いや実生活の事象から生まれた問いに対して、保健体育の見方・考え方を促すことのできる問いや出会わせ方を工夫する。

【これまでに行ってきた例】

- ・傷病者発見から救急隊への引き渡しまでの状況を設定し、自分たちができることを問いかけたことで、迅速な応急手当の重要性に気付くことができた。
- ・オリンピック選手の跳躍の動画を見せ、自分の跳躍の映像と比較したことで、自ら記録向上に向けた課題をもち、解決に向けた視点を明確にもちながら粘り強く追究することができた。



手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

ネット型「ピックルボール」の学習で、返球した後、どのように動くと相手の攻撃を防ぎやすくなるかを考えるよう問いかけた。防げない空間や返球後の動きや立ち位置を視覚的に把握できるよう、試合を撮影したり、失点した場所にフラットマーカーを置いたりするよう伝えた。

【子供の姿】

- ・家で虫が出た場合、壁の方に追い込んで逃げるスペースを減らすと倒しやすいというように、日常生活の場面を想起して意見を考えた。
- ・前衛だと、ボールを高い位置で打てる可能性があるから、真下に速いスマッシュを打つことができるという考えをもった。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

走り高跳びの学習で、より空間動作に目が向くように、助走を1歩に制限した。アプリ「Video Delay Free」の遅延再生機能を活用して、自他の試技を客観的に分析するよう働きかけた。課題を共有する場を設けるために拡大した技の連続図を準備し、気付いたことを書き込むよう伝えた。

【子供の姿】

- ・自身の試技を見ることで、跳べたり跳べなかったりした要因が明確になり、新たな課題を発見することができた。
- ・振り上げ脚の膝を伸ばすことで、バーと脚が平行になり、より高くバーを跳び越えられることに気付いた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

保健「心身の機能の発達と心の変化」の学習で、針で小さな穴を開けた紙を用意し、その穴が何の大きさを表しているかを考えるよう促す。子供の予想を集約した上で、人の誕生の始まりの大きさであることを伝えた。

【子供の姿】

- ・子供は「こんなにも小さな状態から大きくなって産まれてくるからすごい」と感想をもった。
- ・子供は「こんなにも小さいのに、どうやって人間の体ができていくのか」と疑問をもった。



実生活の中から技術に関わる問題を見だし、技術を工夫して創造する

技術・家庭科（技術分野）における学習内容の有用性とは

- ・社会や実生活で利用されている技術に目を向け、技術と生活や社会、環境との関わりを理解できるようになる。
- ・技術を工夫し、よりよい生活を創造することができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・整理棚の設計をしたが、今後、ものが増えたときのために引き出しを作ったり、収納できる幅を変えられたりできるように、設計を見直して整理棚を作ってみたいな。
- ・振動発電や水素発電など、今まで知らなかった発電の方法について知ることができた。日常的に多く人が集まる駅や学校などの場所に振動発電を設置すれば、発電効率が多少悪くても安定して電気を供給できるようになるんじゃないかな。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・本時の学習内容に直結する疑問をもてるように、生活の中で実際にある事象の画像や映像を提示したり実験装置で実演したりする。
- ・道具や工具を適切に扱えるようになりたいと憧れをもてるようにするために、教師やゲストティーチャーによる実演を行い、示範による手本を示す。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・新しい視点や考えを得るために、個人で考える時間を設けた後、製作物を見せ合いながら意見交流を行うよう促す。
- ・作業を円滑に進めていくことができるように、製作工程のチェックリストを用いて作業の進捗状況をペアやチームで確認しながら活動を進めるよう促す。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・本時の授業に達成感をもったり変容に気付いたりすることができるようにするために、整理の際に前時の記録と本時の記録を比較し、作業の進行度や次時につながる目標を確認するよう促す。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・実生活の技術の工夫に目を向け、活用する意欲を高めることができるようにするために、日常生活で起きている問題を取り上げて原因と解決策について考えるよう促す。

【これまでに行ってきた例】

- ・ものが散らかっている部屋の写真を提示し、散らかる原因と解決方法について対話を通して気付かせることで、生徒の整理棚を作りたいという意欲を高めた。
- ・生徒の身近なものであるスマートフォンによる電気事故の例を提示し、その原因と対策方法について問いかけることで、生徒から多くの疑問を得た。



手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

自分や家族が整理棚を使いたくなる工夫をするために、5つの例を実物と写真で提示し、それぞれの特徴を発言するように促した。「大きさ」や「機能」など視点となるキーワードを提示した。提示した視点をもとに、整理棚の試作の改善をするように促した。

【子供の姿】

- ・「安全のために、置く場所によって角の丸さを変えるべきだ」と考えをもった。
- ・「整理してもものがおけるようにするためには、仕切りがあった方がよい」と考えをもった。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

メッセージの送受信のプログラムについて、資料を参考にプログラミングする場を設けた。安心して利用できる送受信のプログラムにするため、改善案をフローチャートに書くように促した。活動が滞っている生徒に対し、どの部分にプログラムを付け加える必要があるかと問いかけた。

【子供の姿】

- ・送信時に送る内容をチェックして、不適切なものがあれば「送れません」と表示をするプログラムを考えることができた。
- ・送信時に「本当に送ってよいか」を確認するプログラムを考えることができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

ショートやトラッキング現象の実験装置での実演を行った。さらに、実生活で実際に起きている事例を紹介し、「こうならないためにどうするか」と問いかけた。その後、電気機器の事故が起きそうな写真を提示し、事故にならないように解決策を考えるよう促した。

【子供の姿】

- ・「自分の家でほこりだらけのコンセントはありそうだから確認したい」と感想をもった。
- ・「電気機器の事故にならないようにするために、どうすべきか」と解決したい疑問をもった。



実生活を工夫し、豊かにする

技術・家庭科（家庭分野）における学習内容の有用性とは

- ・よりよい生活の実現に向けて、実生活の課題を捉え、工夫することができるようになる。
- ・持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな社会問題と実生活を結び付けて考えることで、豊かな生活とは何かを見いだすことができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・私たちが普段よく食べるのは牛肉や豚肉、鶏肉などがあるけれど、この前外食をしたときにダチョウの肉を使った料理があったよ。他の肉と味や栄養価にどんな違いがあるのかな。
- ・リボ払いは支払額が毎月一定だから、お金を使っている感覚が無いままどんどん買い物をしてしまいそう。だから、僕は使わない方がいいな。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・本時の学習内容を自分のこととして捉え、自らの生活行動を改善したいという願いをもてるように、動画を提示する。
- ・調理や裁縫などの技能を向上させたいという憧れをもてるように、手本として要領よく実演する。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・根拠をもって自分の考えを述べるができるように、タブレットを活用してシミュレーションを行い、結果を比較するよう促す。
- ・自分の考えを改善することができるように、グループで考えを共有したりアドバイスし合ったりする場を設ける。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・学んだ知識を生活のどのような場面で生かすことができるかを考えたり、全体で共有したりする場を設ける。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・よりよい生活の実現に向けて主体的に探究できるように、実物を用いて実験を行ったり、実生活を振り返る活動をしたりする。

【これまでに行ってきた例】

- ・醤油が付着した衣服を提示し、「どのようにしたらシミを落とすことができるか」と問うことで、衣服についての汚れの構造や、汚れに対する適切な洗い方について考えることができた。
- ・異なる切り方で切られたニンジンの画像を提示し、「どのような料理に使われそうか」と問うと、火の通りや食感を変えるために料理に合わせた適切な切り方があることに気付いた。



手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

肉の調理にて、牛肉、豚肉、鶏肉の特徴について示した。その他に、どのような動物が食肉用として加工されているかを考え、共有する場を設けた。また、それらを食べたことがある生徒に、どのような味、食感だったかを伝えるよう促した。

【子供の姿】

- ・熊本県に行ったときに、馬刺しを食べたことから、なぜ馬肉は生でも大丈夫なのかという疑問をもった。
- ・チェーン店でオーストリッチ（ダチョウ）の肉を使った料理が販売されていたという意見を述べた。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

（b）



【実践の概要】

クレジットカードにおける3つの支払い方法について比較するよう促した。比較する項目がわかりやすくなるよう、タブレット上で表を作成して配付した。手数料や1か月の支払い額の違いを見て、自分はどの支払い方法を活用したいかを理由とともに書くよう伝えた。

【子供の姿】

- ・「手数料がもったいないから一括で買えるまでお金を貯めたい」や「値段に合わせて支払い方法を変える」などの意見をもつことができた。
- ・支払い総額を比較することによって、リボ払いにはデメリットが大きいことに気付くことができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

生徒が皿洗いをしている様子を撮影した動画を提示した。水を出したまま洗い物を進めたり、油汚れが付着した調理器具をスポンジで洗ったりする点を強調した。環境問題に配慮した調理がキーワードであることを伝えた。

【子供の姿】

- ・「家ではすべて洗剤で洗い終わってから水で流す」や「油汚れは拭き取ってから洗う」と感想をもった。
- ・「油汚れを流すと環境にどのような悪影響を及ぼすのかな」などと疑問をもった。



グローバル社会を生き抜く英語力を育む

英語科における学習内容の有用性とは

- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、国際的な視野を広げることができるようになる。
- ・自らの思考力・判断力・表現力を発揮し、英語によるコミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深めることができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・意見を言う時に“because”を使って、自分の考えや気持ちを伝えられそうだし、会話が続ききっかけになるといいな。また、“because”の後に理由を言うことができるから、言い訳をするときに使えそうだな。
- ・エシカルファッションとファストファッションには何か違いはあるのかな。コンビニで「エシカル商品は割引対象」というポップを見たことがあるから、ファッション以外にもそのような商品を調べてみたいな。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・相手意識をもてるように、身近で具体的な場面設定をし、相手に伝えたいことを問う。
- ・学習者の興味を引き付けるために、教科書の内容に即した視聴覚教材や実物を提示する。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・言語活動の充実を図るために、個人で考える時間を設けてからペアやグループに発信するコミュニケーション活動を行う。
- ・他者と関わり自分の考えを客観的に捉えることで、自己の思いや考えを再考できるように、タブレット端末や協働学習アプリを活用する。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・課題に対する表現や考えを共有し、個の考えを広げたり深めたりするために、コミュニケーション活動において Share タイムを設け、学びの再構築を図る。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・主体的に外国語によるコミュニケーションを行えるように、生徒が自分のこととして考えられる実社会や実生活の事象に合わせた場面設定をする。

【これまでに行ってきた例】

- ・岡崎市に観光に来た外国人が東岡崎駅で道に迷っていたという生徒の話から、実際の地図を使って道案内の方法を考えることで、必要な英語表現を学び、習得しようとする意欲を高めた。
- ・レストランで働く配膳ロボットを動画で紹介した。現在、日本で社会生活に AI が利用されている状況を知り、世界と比較をしていくために、グループで話し合うことで、生徒の考えの表出につながった。



手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

導入でエシカルという言葉から連想するものを考え、意見を交流した。さらに、エシカルについて調べ、スクールタクトにまとめてから教科書の学習に取り組んだ。自分たちにできるエシカルな取組にはどのようなことがあるかを説明した。

【子供の姿】

- ・ファストファッションと考えが真逆。エシカル商品を選ぶことが社会貢献になりそう。
- ・エシカルはSDGsとつながっていると思うから、自分たちの生活に生かしたいな。
- ・エシカルで環境とかの世界的な問題も解決できそうだ。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

教科書のキャラクターに向けて、おすすめスポットの紹介文をスクールタクトに記入するよう促した。“because”の後にどのような英文を書くか相手が行きたいと思えるのかを友達と話し合う場を設けた。

【子供の姿】

- ・“because”の後に“you can”と続けて書き、相手の視点に立った理由を示すことができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

「外国人の方に岡崎のおすすめのラーメン店を紹介するなら、どう紹介する」と問いかけた。自分の経験を基に接続詞を使いながらおすすめのラーメンを資料付きで伝え合う場を設けた。友達の見解を聞いて、魅力が伝わったかどうかを考えるよう促した。

【子供の姿】

- ・“because”の後に詳しい情報（味、スープ、麺、値段）などを書くとラーメンの魅力が相手に伝わりやすいという考えをもった。
- ・今後“because”を使って理由を述べながら意見を言うと言説力があるので、今後は積極的に使いたいと感想をもった。



他者理解を深め、社会的自立を育む

特別支援教育における学習内容の有用性とは

- ・人の意見や考えを認めたり、感じたことや考えたことを伝えたりすることができるようになる。
- ・個々の実態に合わせた課題のもと、自己の達成感を積み重ねる経験を通して、社会を生き抜く力を身に付けることができるようになる。

手だてⅢ：自分の学びと向き合い、豊かに発想する「クリエイティブチャット」

【子供に話してほしい内容の例】

- ・ブロック交流会で小学生に渡すプレゼントの紹介動画なので、小学生に作り方をわかってもらえるように字幕をつけたり、簡単な言葉を使ったりするとよいと思う。
- ・私が仕上げ作業をしたクラフトバッグが売れて嬉しかった。もっと売れるように、ポスターには、バッグの使い方の写真を載せたり、金額の数字を大きく書いたりしてみよう。

手だての具体

手だてⅡ：全員が「わかる」ための単位時間の学習過程の工夫

（a）疑問や願い、憧れをもてる導入

- ・バッグの売上を使って、みんなで映画を見に行きたいという願いをかなえるために、目標達成までのバッグの個数がわかる表を提示する。
- ・学習した植物の分類を自らの手で実際にやってみたいという願いをかなえるために、分類しやすい身近な野菜を用意する。

（b）自分の考えを表出できる学習活動

- ・実態に合わせて人との関わりがもてるように、ペアやチームで意見や考えを伝え合ったり、学級全体で共有したりする場を設ける。
- ・ICTやユニバーサルデザインプリントを活用し、障がいや苦手なことに合わせた支援や指導を行う。
- ・ブロック交流会のワークショップで小学生にわかりやすい説明や丁寧な対応が実践できるように、役割を変えて何度もロールプレイングを行う場を設定する。

（c）学びの整理を促す教師の出

- ・生徒が学びを振り返り、自分以外の人の気持ちに立って考えられるよう、「この発表の方法で伝わりやすいかな」「相手はどう思っているかな」などと問い返す。

手だてⅠ：実社会や実生活の事象を学びのきっかけとする単元の導入の設定

- ・これまで関わりのあった人や身近な人の思いに触れたり、普段目にしている身近なものを題材にしたりして、生徒がイメージや見通しをもって、主体的に活動に取り組めるように、教材との出合わせ方を工夫する。

【これまでに行ってきた例】

- ・納品先のお店からの「このバッグが人気で、よく売れる」という言葉を聞き、さらに多くの人に喜んでもらえるように、色合いを工夫し、丁寧に仕上げたバッグを作りたいと、作業学習への意欲を高めた。
- ・学級で育てた玉ねぎや普段食べている植物を実際に見たり触れたりすることで、葉の違いに気付き、植物は葉脈で分類できることに興味をもった。



特別支援教育 実践例

手だてⅢ クリエイティブチャット



【実践の概要】

小学生にプレゼントするペーパークラフト作品の紹介動画を制作することにした。制作した紹介動画を視聴する時間を設け、自分の話し方や表情、伝え方を振り返ったり、互いの動画を見て、感想を伝え合ったりするように促した。

【子供の姿】

- ・「実際に紙を切る動画の方がわかりやすい」と小学生の立場に立った意見を考えた。
- ・「声は大きい方がよい」と感想をもった。
- ・「英語による紹介の動画には日本語の字幕をつけた方がよい」と新たな考えをもった。

手だてⅡ 全員が「わかる」ための工夫

(b)



【実践の概要】

特別活動「ブロック交流会でワークショップを行おう」で、おしゃれなマグネットの作り方を小学生にわかりやすく伝えるためにどうしたらよいかを考えるために、教える人と小学生役に分かれてロールプレイングを行うよう伝えた。

【子供の姿】

- ・「声が大きすぎても小さすぎてもいけない」や、「小学生にかけ言葉だから丁寧に優しくした方がいい」という感想をもった。
- ・小学生の役を行うことで、小学生の気持ちを理解することができた。

手だてⅠ 実社会や実生活をきっかけとする単元の導入



【実践の概要】

理科「植物の分類」の学習では、学級で育てている根付きのタマネギなどを用意し、実際に触れた後、どのような違いがあるのかと問いかけた。子供の発言を集め、葉脈が「しましま」「あみあみ」といった違いがあることを確認した。

【子供の姿】

- ・「表だけでなく裏からも見るとわかりやすい」と新たな気づきを得た。
- ・「レタスはあみあみかな」「しましまな気もする」とグループで意見を交わした。

おわりに

生徒会が掲げた本年度のスローガン『みんなでつくる竜海 ～楽しすぎて幸☆～』を受け、授業で味わうことができる「楽しすぎて幸☆」とはどんなことなのかを考えました。その中の一つに、本研究主題の「教科の学習内容の有用性を実感する」を重ねてみました。未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒に育つことにより、個人の幸から集団の幸へと広がり、さらなる主体的・対話的で深い学びにつながっていくと期待に胸を膨らませることができます。

昭和 38 年度以来一貫して「わかる学習指導」の自主研修を続けてきた先人の取組に敬意を表するとともに、この思いをつなぐ幸せを存分に味わい、次の世代につなげるために今後も試行錯誤を繰り返しながら、新たな課題に挑戦していきたいと考えています。

本研究ならびに授業研究協議会の開催にあたり、懇切丁寧に指導してくださった指導員の先生方、学校関係者の方々、日頃より竜海中学校に期待と応援をしてくださっている全ての方々に心より感謝申し上げます。本日の授業研究協議会はもちろんのこと、今後も引き続き、多くの皆様からの忌憚のない御意見と御指導をいただければ幸いです。

(教頭 高柳 俊英)

研究同人

令和 8 年度

安藤 眞樹	高柳 俊英	松永 直樹	畠中 恵実	栗山 茂三	尾山 和昭	高橋 尚子	太田 尚志
長坂麻奈美	佐渡 英彰	深海左知恵	田上 純子	中村 泰志	加藤 雅代	久貝 雄二	伊豫田美穂
佐々木みゆき	川口 麻衣	尾崎 秀彰	増田 宗己	稲垣 圭	辻村 堅吾	太田 真喜	緒方 涼子
右左美裕一	森 一生	小柳 直希	小森 一輝	中野 翔太	山田 真希	都築 周平	西村 美穂
佐藤 亮太	土屋 翔平	蜂須賀一輝	山本 悠司	丸中 美来	渡會 大貴	山本 由唯	神谷 美華
生駒 謙汰	伊庭なぎさ	飯田 将太	杉山 美咲	森 翔汰	十文字優子	前田伊万理	齋竹 隆作
後藤 英太	三浦 明香	蛭川 和真	田口 楽人	山口 諒	三浦 幹太	宮城 瑠偉	増尾 月麦
古沢 萌乃	小坂 芳正	清水 良隆	近藤 善紀	伊藤 幸子	山田 茂	伊藤 研治	柴田 敏子
佐藤 博	志田 恵子	岡田奈津希	田邊 まい	石川 颯大	水越 加菜	千種 英夫	鈴木 久夫
田村麻由佳	石川 聡子	今泉ゆうこ	長谷川知子	芳賀 理恵	廣田 久美	アダム ロルフスマイヤー	

令和 7 年度

早川 周宏	牧野 恵美	檀浦 啓造	荒川 和弘	椎葉 豊和	中村由香利	杉浦英理奈	粟生 裕輝
稲吉 優志	小島 夕季	脇田 貴斗	石原 千里	伊藤 千佳	川副 友暉	近藤亜紀子	河合 美保

令和 6 年度

児玉 洋行	稲垣里栄子	林 秀	新實 弘章	小松 陽子	富安 有美	山本 浩司	加藤 秀太
飯塚みのり	小林 彩華	星野 友紀	江口 京弥	宮國 椋平	後藤 優果	近藤 浩之	酒井 育代
堤 文音	服部 楓香	橋口 桃子	渡邊 幸枝	菅原 恵子	羽根渕一夫	仲谷 郁恵	中田 美久

令和 5 年度

成田 隆行	小野内美紀	酒井 智之	尾山香淑子	尾関ひとみ	武井 翔	瀧 将太	赤堀 大知
矢部 貴司	服部 真生	中野 瑞穂	北村 文啓	小林 直子	近藤 嗣郎	長坂 通世	河澄 綾
瀬戸 藤代	松下 里実						

「わかる学習指導」のあゆみ

「わかる学習指導」研究開始（昭和 38 年度）

第 1 次研究

自主学習をめざす「わかる学習指導」

（昭和 38 年度～昭和 46 年度）

第 3 次研究

自ら取り組み共に
高め合う授業を求めて
（昭和 56 年度～昭和 62 年度）

第 5・6 次研究

自ら追究する生徒の育成
—教科指導を中心として—
（平成 5 年度～平成 10 年度）

第 8 次研究

自ら学ぶ力を高める生徒の育成
—教科学習を中心に—
（平成 15 年度～平成 18 年度）

第 10 次研究

自ら学び表出する生徒の育成
—コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に—
（平成 23 年度～平成 26 年度）

第 12 次研究

自ら学び続ける生徒の育成
—「読む」「書く」の充実を図り、『わかる』の実感を強める学習指導を中心に—
（令和元年度～4 年度）

第 2 次研究

わかる学習指導
県より「教育課程研究」指定
（昭和 48 年度～昭和 55 年度）

第 4 次研究

生徒自ら追究する学習
（昭和 63 年度～平成 4 年度）

第 7 次研究

自ら追究し自己向上をめざす生徒の育成
—教科指導を中心に—
（平成 11 年度～平成 14 年度）

第 9 次研究

生徒の学ぶ力を鍛える授業の創造
—3 つの学ぶ力を意識した授業展開—
（平成 19 年度～平成 22 年度）

第 11 次研究

チャレンジ竜海式 Active Learning
—コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に—
（平成 27 年度～平成 30 年度）

第 13 次研究 未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成
—教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して—

龍中

